



92年のローレンス・オリビエ賞で最優秀作品賞を獲得しているヒットミュージカル。



1/5~29 青山劇場 水曜日休演。土曜日、日曜日、1/16、27は昼の部もあり。
S ¥15,000 A ¥10,000 J ¥9,000 〓カルメン・ジョーンズ公演事務局 (ホリプロ内)
☎03・3490・4621 *2月には、福岡、大阪、名古屋、浜松、横須賀を巡演。

ウエストエンドで蘇ったブラック・カルメン。 『カルメン・ジョーンズ』来日公演。

黒人キャストによる「カルメン・ジョーンズ」でいちばん目を引くのはコスチュームだ。「マルコムX」での、独自の黒人ファッションが、強烈だったように、「カルメン・ジョーンズ」でも、官能のままに生きる主人公カルメンの鮮やかな赤の衣装を中心に、彼女の周りを囲む人々の白、紫、ブルーなどの強烈な色彩が、見事に生きている。

この作品は「存じのよう」にオペラ「カルメン」をベースにして、「サウンド・オブ・ミュージック」の作詞家としてつとに有名なオスカー・ハマースタインII世が、舞台を1943年のアメリカ南部のパラシュート工場に移し替えてミュージカル化したものである。初演は1943年で、12月2日に開幕し、502回上演されている。つまり、

金丸弘美



アクロバットやダンスなどをミックスしたシルクパロクの舞台。

当時においてはリアルタイムの物語であつたわけだ。そして1991年、ロンドンで新たに蘇つたのが、今回の「カルメン・ジョーンズ」である。

原色のコントラストの強い色彩に舞台のテーマが象徴されているといったが、それは、ドラマ、サクセス、ベイスといった楽器の編成から生まれる主人公たちの性を歌うようなサウンド、そしてパワフルな踊り、特に群衆シーンは圧巻で、それらが、ストーリーリと巧みに融和しているのだ。そしてとりもなおさず、情熱のままに生をまっとうする主人公の強烈なパッションが、彩りにも表現されているといつていい。新たな「カルメン・ジョーンズ」を堪能したい。

12/5~27 日生劇場 12/19休演 12/5、7、9、12、16、22、26は夜の部のみ 12/14、23は昼の部のみ、そのほかは昼夜2回公演(12/8夜は売り切れ) A ¥11,000 B ¥6,000 C ¥3,000 〓東宝テレビザープ ☎03・3201・7777

12/17~31 Aプロ「笑へりかん巻」12/29、30は休演 日曜日、祝日、12/28は昼の部のみ、24は夜の部もあり 1/5~15 Bプロ「吠えろシルクパロク」1/9休演 土曜日、日曜日は夜の部のみシアターコクーン S ¥6,000 A ¥5,000 C ¥3,000 シート ¥3,000 *12/31のみ各席1000円増し。A+Bセット券、クリスマスヘアセット券あり。 〓Bunkamura ☎03・3471・3244

日替わりゲストの顔ぶれも楽しみな、シアターコクーン恒例のバラエティショー。今年は吉田日出子以下自由劇場のメンバーを中心にしたおなじみのパターンに加え、Bプロでは、フランスからシルクパロクというグループが初来日。最近ヨーロッパでひとつのムーブメントとなっている、よりシアトリカルな表現をめざす新しいタイプのサーカスを見せてくれる。日本版のほうも、シルクパロクの団長クリスチャン・タゲほか参加してにぎやかに。



荻野博士夜は元夢の遊眠社の佐戸井けん太。

自転車キンクリーツ
カンパニープロデュース
『法王庁の避妊法』

題材が興味深い。かの「オキノ式」の提唱者である荻野久作を主人公にしたストーリー。作者・飯島早苗が、その生涯をつづつた同名の小説と出合って芝居化を思いついたという。受胎の不思議に魅せられた医師と、彼をとりまく女性たちの姿を通して語られる、この女性作家の「産むこと(産まないことも含めての)」「へのこだわりは、どんな答えを見つめるのだろうか。」

12/10~19 新宿スペースゼロ 12/11は夜の部のみ 17、18は昼の部もあり 全席指定 ¥3,800 〓自転車キンクリーツカンパニー ☎03・5448・9443

REALISATION KAORI SHINDO



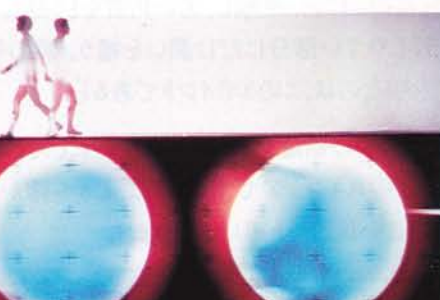
この作品では、作・演出に専念する野田秀樹。

平成元年に初演された『野田版・国性爺合戦』は国づくりをテーマにしたスケールの大きな戯曲だったが、今回の公演では、お芝居好きをうならせるキャストイングでさらにパワーアップした舞台が期待できそう。大竹しのぶ、伊原剛志のほか、初めての野田作品となる白石加代子、黒テントの斉藤晴彦、「キル」での奮闘演技も記憶に新しい渡辺いっけいなど、うまい役者さんがスラリ。もちろん、例の問題が気になっている人も必見のステージ。

1/7~16 スパラルホール 1/11休演 1/14、15、16は16時30分より 全席自由(入場整理番号つき) ¥4,000 〓スパラル ☎03・3498・1171

映像やテクノロジーを駆使した先鋭的なパフォーマンズだけでなく、最近ではエイズ問題など、社会的な活動にも積極的な姿勢を見せるダムタイプの新作。ここでも、アイデンティティや差別にまつわる問題意識を鮮明に、それを完成度の高いパフォーマンスとして提出してみせる。客席の前方にそびえる一面の壁。「こちら側」と「あちら側」を隔てている境界線上の細長いスペースをパフォーマンスたちが動きまわる図は、限りなく刺激的だ。

映像やテクノロジーを駆使した先鋭的なパフォーマンズだけでなく、最近ではエイズ問題など、社会的な活動にも積極的な姿勢を見せるダムタイプの新作。ここでも、アイデンティティや差別にまつわる問題意識を鮮明に、それを完成度の高いパフォーマンスとして提出してみせる。客席の前方にそびえる一面の壁。「こちら側」と「あちら側」を隔てている境界線上の細長いスペースをパフォーマンスたちが動きまわる図は、限りなく刺激的だ。



『S/N』より。活動10周年を迎え、初のCDもリリース。撮影=高谷桜子